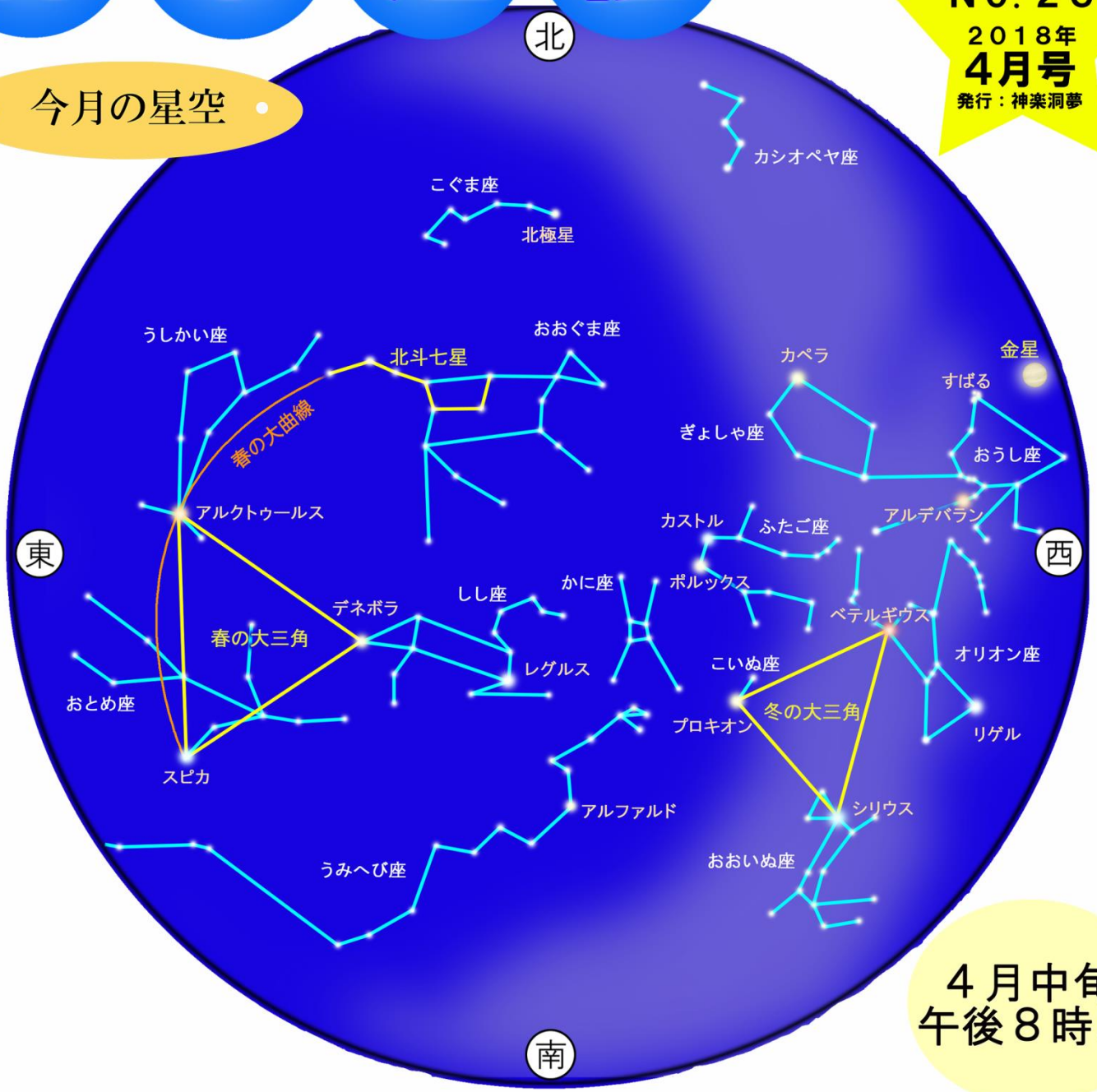
神楽通信

No.26
2018年
4月号
発行：神楽洞夢

今月の星空

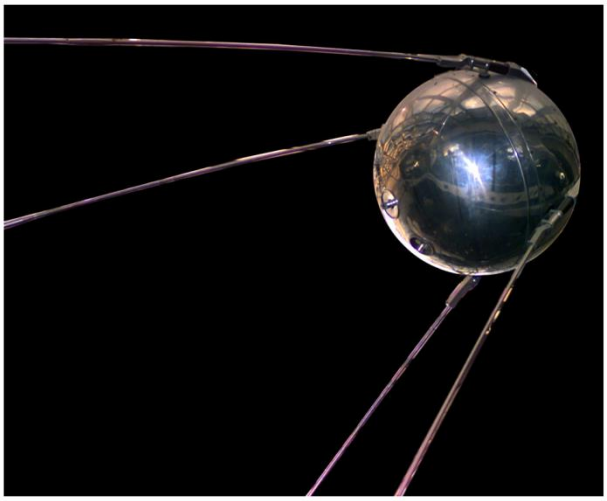


４月中旬
午後８時頃

西の空で金星が１番星として明るい輝きを放ち、春の星たちも見ごろを迎えました。南の空高いところにはしし座の１等星レグルスが昇り、北の空ではおおぐま座の北斗七星が目立ちます。そこから春の大曲線を伸ばすと”春の夫婦星”と呼ばれる１等星のアルクトゥールスとスピカが見つかります。夜桜と共に、これらの見つけやすい星ぼしもご覧になってみてください。

世界宇宙飛行の日

１９６１年のこの日に有人宇宙飛行船ボストーク１号が人類史上初の宇宙飛行に成功したことを記念し、４月１２日は『世界宇宙飛行の日』とされています。



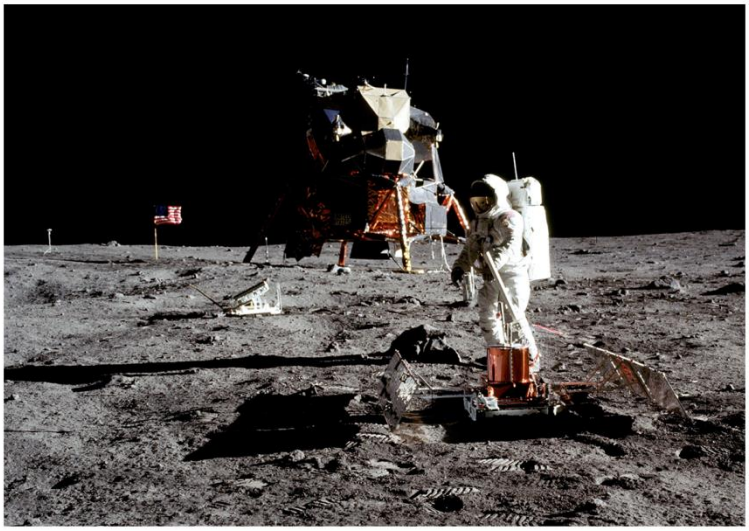
初の人工衛星スプートニク１号（提供：ＮＡＳＡ）

１９４５年から始まった冷戦時代、アメリカと旧ソ連は自国の技術力を世界中に示すため宇宙開発に莫大な予算をかけました。

１９５７年１０月に旧ソ連は初の人工衛星「スプートニク１号」を打上げてアメリカをリードしました。その後作られた２号には犬が乗せられるなど、人間の宇宙飛行の可否を判断する実験が始まります。１９６０年８月１９日に打ち上げられた５号では、軌道周回後に初めて生物が生きたまま地球に帰還しました。

この結果を受け１９６１年４月１２日に旧ソ連が「ボストーク１号」で人類史上初の有人宇宙飛行を成功させました。

ユーリ・ガガーリン宇宙飛行士の乗った宇宙船はバイコヌール宇宙基地から打ち上げられ、１時間４８分の飛行を終えて地球へと帰還。ガガーリンの「地球は青かった」という言葉はとても有名です。



１９６９年、月に降り立つ宇宙飛行士（提供：ＮＡＳＡ）

大きく先を越されてしまったアメリカでしたが、１９６９年７月にはアポロ１１号で人類初の月面着陸を成功させ世界中から評価されています。

その後宇宙開発は競争から協調の方向へと移り、２０１１年にはアメリカやロシアをはじめとした１５か国の協力により国際宇宙ステーション（ＩＳＳ）が完成しました。現在は金井宣茂宇宙飛行士が第５４・５５次クルーとして滞在し、２０２０年には星出彰彦宇宙飛行士がＩＳＳの船長を務めることが決定するなど、日本人も活躍しています。

今でこそ人類が宇宙に向けて飛び出すのは当たり前となりましたが、５０年以上前の先人たちの努力が今日の宇宙開発に結びついているのです。

Okasan Digital Dome Theater
神楽洞夢
KAGURA DOME
http://kagura-dome.jp
〒514-0032　三重県津市中央 5-20
TEL. 059-221-3121　FAX. 059-226-1565